平成 27 年 6 月 6 日（土）
企画渉外部・桃陰文化フォーラム事務局

第３２回「桃陰文化フォーラム」報告
天中・天高から育った文学者たち
～折口信夫と小野十三郎、開高健ら、その窓・人・風景～

第３２回「桃陰文化フォーラム」は高校１９期生の葉山郁生（阪井敏夫）先生をお招きし、「天中・天高から育った文学者たち～折口信夫と小野十三郎、開高健ら、その窓・人・風景～」と題するご講演で在校生・保護者・先生と卒業生ら 60 名ほどが参加し、お話を伺いました。先生は本校では山岳スキー部に所属して活躍され、京都大学経済学部で学ばれました。その後、京都大学文学部フランス文学科に転入学され、文学を研究し、小説の執筆活動の傍ら大阪文学学校や大阪芸術大学で教壇に立ち、評論活動などを行ってこられました。また、大阪文学協会代表理事や小野十三郎賞実行委員会代表を勤められるなど、大阪の文学の発展にも多大な貢献をされています。

当日、講演の冒頭で「両手を頭の上で合わせて下さい。右手に強く意識をおくと右手が左手をさわっている。しかし、反対に左手に意識をおくと左手が右手をさわっている。両手を合わすだけで４種類の感覚がある。」とおっしゃいました。これを参加者全員で体験しました。この実演は主体と客体の境界について知るためだったのです。次に虹の色は何色かという問いかけをされました。日本では虹は７色であるとよく言われますが、先生の答えは「無限」でした。「言葉があるから物事を考えられるが、それが物の見方を縛っている。言葉＝意味だけでなく、その先を考えるのが文学者であり、芸術家である。詩人、画家の目、窓は虹が７色となってはいけない。」わかりやすい丁寧な文章や写真、動画などは一見すべてを理解させてくれるような気になります。しかし、それだけで終わってしまうのではないかと感じました。例えば、俳句や短歌は情報量から言えば、非常に少なく「わかりにくいもの」といえるかもしれませんが、そこから生み出されるものは「無限」に広

がっていきます。先生も講演の中で繰り返していましたが、五感を磨くことは芸術家だけでなく、我々一般人にも大切なことではないでしょうか。

最後に、先生から天高生へのメッセージとして、「オールラウンドの秀才でももちろん良い。でもオールラウンドの偏向でも良い」「勉強しなければいけないが、大学に入るためではない。一生やれることを見つけることだ」という言葉をいただきました。今回のテーマは文学でしたが、その枠にとどまらない幅広い内容で参加者から大きな拍手が起こりました。

お忙しい中、お越しいただいた葉山先生にあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

【生徒感想】

・オールラウンドな秀才も良いけど、生涯をかけてやり続けられることを見つけるべきだということに深く感銘を受けた。

・自分自身の学が未熟で理解しきれなかった部分もあったが、１つの物事に対していろんな見方があり、そういう感性が文学につながっていくのかなと思う。

・「偏向せよ」という言葉は初めて聞きました。今まで１つのことだけに集中するということをしたことがなかったので、１つ見つけていきたいと思います。

・作家の意見を直接聴くことで、自分の考えが豊かになったと思う。

・貴重な話が聞けた。文学の奥深さについて触れることができたと思う。

【保護者感想】

・熱意の伝わる話でした。初めて知る名前や作品を知る事が出来て良かったと思います。

・貴重なお話ありがとうございました。日常の生活を窓を通してもう一度見直したくなりました。本日は本当に有意義な時間をありがとうございます。

・「偏向せよ」「自分をセーブするな」の言葉は本当にいままさに学生の子どもたちにも聞いてほしいお話でした。アルミサッシのお話も自然が暮らしから切り離されている原因として日頃から感じていました。今日のフォーラムは入り口ですね。様々な興味が拡がりました。

・普段の生活では関わりのない文学について、改めてこんな学問もあるのだと思った。

・文学の風景や意味を想像しながら考えることができて、お話を聞いて楽しく思いました。文学を意識することがないのでいい機会になりました。

・先生のお話は私にとってとても難しかったです。しかし、お話をきいた上で私の生活を考えると、私は重厚な窓を自分で作りあげ、毎日同じ景色ばかり見て、外に出ることをさえぎっていたように思います。窓を取り払い、外と内の壁をなくすことで、自分をもっと自由に開放できるのではないかと思いました。貴重なお話ありがとうございました。

「文学」からかけ離れた自分にとっては新鮮な部分が多々ありました。感性・五感・イメージを大切にしながら「窓」を開けての生活、生き方を考えるきっかけになりました（５０歳を過ぎた今）。

室内のリアルにのみひたる日常から窓の外へ視点を変更することが少しできたような気がしました。様々な作家の多方面からの解説は興味深かったです。
・お話を聞いて、五感をフル活用して生きられれば人生はより楽しいもの（良いもの）になるんだろうなぁと思いました。（日々の生活の中に文学的感性を取り入れたい）と感じました。